

流通とSC・私の視点

2012年10月15日

視点(1644)

日本の国内最終消費支出の内訳!!

(流通経済編)

国内個人最終消費支出はGDPの6割弱を占めています。その内訳は次の通りです(2010年度)。

(単位: 10億円)

	名目個人消費支出		実質個人消費支出	デフレーター (%)
	金額	構成比 (%)		
国内家計最終消費支出	277,002	100.0	306,673	90.3
1 食料・非アルコール飲料	38,120	13.8	37,734	101.0
2 アルコール飲料・たばこ	7,103	2.6	6,482	109.6
3 被服・履物	9,017	3.3	9,074	99.4
4 住居・電気・ガス・水道	70,916	25.6	73,502	96.5
5 家具・家庭用機器・家事サービス	11,060	4.0	14,338	77.1
6 保険・医療	12,534	4.5	12,534	100.0
7 交通	30,067	10.9	29,384	102.3
8 通信	8,346	3.0	9,003	92.7
9 娯楽・レジャー・文化	28,352	10.2	52,128	54.4
10 教育	5,879	2.1	6,216	94.6
11 外食・宿泊	18,094	6.5	17,671	102.4
12 その他	37,514	13.5	38,607	97.2

出典: 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部企画調査課

< GDPに占める個人消費支出の日本とアメリカの比較 > (2010年)

	GDP	個人消費支出	個人消費支出比率
アメリカ	1,466 百億ドル	1,035 百億ドル	70.6%
日本	479 兆円	277 兆円	57.8%

経済が成熟すればするほどGDPに占める個人消費支出は大きくなります。アメリカの個人消費支出はGDP比で70.6%、日本は57.8%となっています。アメリカは1980年代からモノづくりをやめて、国内消費を基軸とする成熟経済国家の道を進んでいます。モダン消費時代のモノづくりは後進国に任せたほうが、国民生活は豊かになります(ただし、新産業の構築が必要となります)。

日本も脱工業化・工業の後進国化を進め、アメリカほどではありませんが、日本国内での個人消費支出比率が高まっています。中国は新興国ですので、工業やインフラ産業や不動産等のウェイトが高く、個人消費性向は40%程度と想定されます。

ただ、モダン消費経済のレベルでは後進国にモノづくりを任せるのが理論的ですが、ニューモダン消費経済時代には先進国での「新モノづくり」が必要となるので、私は「日本の近未来の個人消費支出の対GDP比は60~65%」(ただし、新陳代謝して中身は大きく変化)が適切と考えています(六車流: マーケティング理論)。

また、GDPだけで経済力を見るのではなく「国民総所得」(GDP+所得収支)で見るべきで、2010年のGDPは479兆ですが国民総所得は492兆円(GDP479兆円に国外からの所得収入18兆円をプラス、国外への所得支出5兆円をマイナス)となります。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六車^{むぐるま}秀之